

# 構造と動作

コイルを内蔵したフィールド（静止部）は玉軸受で支持されています。

ロータ（回転部）と一体になったアウトドライバにはアーマチュア、アウトディスクがラゲかん合され、インナディスクを交互に入れた後に調整ナットがネジ結合されています。

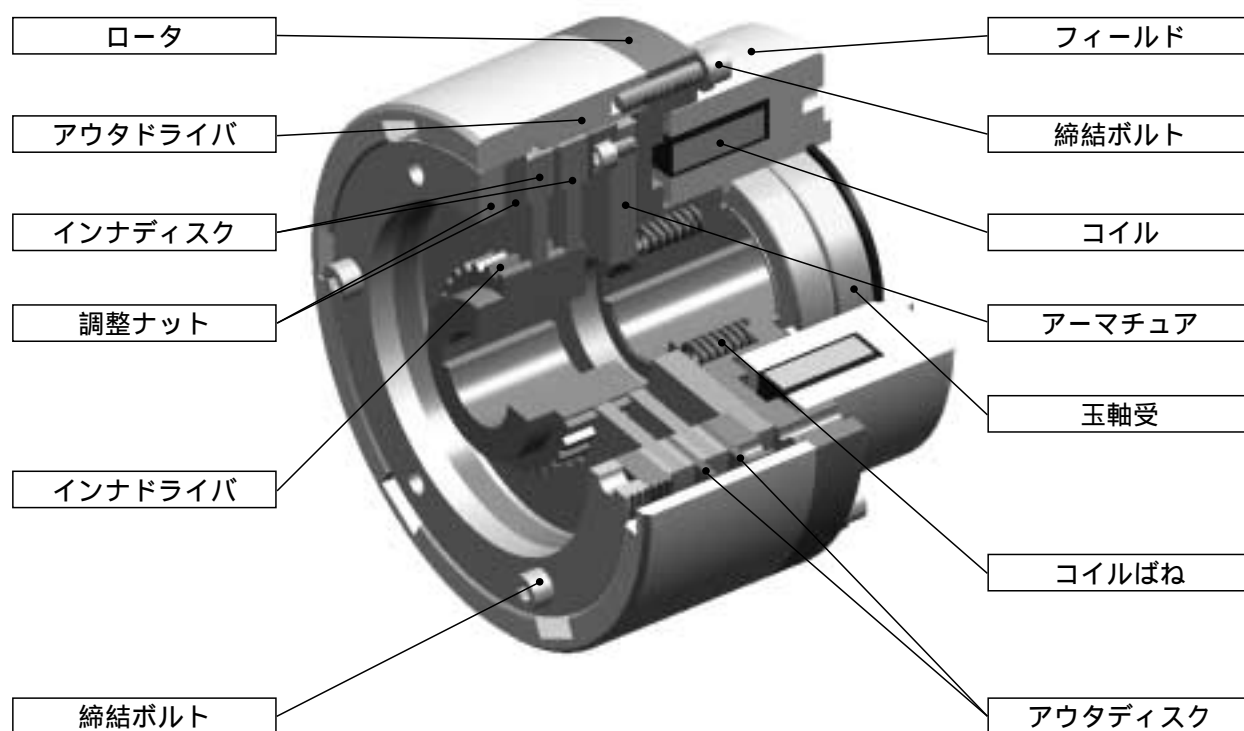
調整ナットはロータに内蔵されたコイルばねの力を受けています。

また、インナドライバはインナディスクとスプラインかん合しています。

コイルばねの力はアーマチュアを介してアウトディスク、インナディスクに伝わり圧着され、トルクを発生する構造になっております。

コイルに通電するとフィールド、ロータ及びアーマチュア間に磁束が生じ、アーマチュアはロータに吸引されクラッチは解放します。

励磁を切るとアーマチュアはコイルばねの力でロータから切り離され、アウトディスク、インナディスクは圧着されるのでクラッチは急速に連結します。



SMC形 無励磁作動クラッチ